

えびの高原

えびの高原は霧島連山に位置し、海拔 1,200m のところにあります。記録によれば早くも 10 世紀ごろから、山で苦行を行う修験道の実践者や、地域を統治していた薩摩藩主がここを訪れていました。江戸時代（1603～1867 年）には硫黄採掘が本格的に始まり、1962 年まで続きました。1950 年代には自然観光のために宮崎県が地域開発を開始し、登山者用の小屋や高原に向かう道路を建設しました。

えびの高原の地勢は周囲の火山によって形成されており、その有害ガスや火山活動のために育つ植物が限られていました。そんな中、ススキはこのような厳しい環境でもたくましく伸びています。実際、秋になるとススキがガスの影響により赤茶色——えびの色（*the color of shrimp*）——に変わることから、高原の名前の由来もススキに関係していると一般的に考えられています。

ミヤマキリシマのツツジも、この厳しい環境ですくすく育ちます。海拔 700m 以上の高地で育つこのツツジは、5 月下旬から 6 月初旬にかけて咲きます。火山活動が安定し土壌が良好になると、ツツジ生息域は周囲の森に飲み込まれる可能性があります。今のところはこの地域の独特な過酷環境がミヤマキリシマツツジの最大の支えとなっています。